

経済振興委員会報告資料

ボートレース福岡パーク化事業の基本計画(案)について

令和6年2月
経済観光文化局

ボートレース福岡において、検討を進めている『ボートレースパーク化』（以下「パーク化」という。）について、事業の基本計画(案)を報告するもの。

1 ボートレース福岡におけるパーク化の基本方針

◎ボートレース場による地域貢献

ボートレース福岡は開設70周年を迎え、今後も地域や市民の方々に親んでもらう施設であるために、地域に開かれた魅力的な施設を目指す。



◎若年層やファミリー層の来場のきっかけづくり

来場者が減少している現状を踏まえ、ボートレース福岡の魅力を発信するさまざまなイベントが実施可能なイベント広場や、東京2020オリンピックにおける日本人選手の活躍等を背景に、福岡市内においてニーズが高まっているスケートボードについて、初心者から上級者まで誰もが楽しめる施設をボートレース場に整備することにより、若年層やファミリー層の来場のきっかけづくりを目指す。

◎多くの市民が集うことによるにぎわいの創出

スケートボード施設利用者をはじめ、多くの市民が日常的に訪れたくなるような便利施設（飲食店や物販施設など）を配置するとともに、イベント広場には、さまざまな遊具やスポーツ設備等も設置し、ボートレース場と一体となって継続したにぎわいの創出を図る。

◎大規模大会が開催可能な高水準のスケートボード施設の整備

市内に大規模な大会が開催できるようなスケートボード施設が無い状況を踏まえ、世界に通用するスケートボード選手が生まれるきっかけとなるような、大規模大会が開催可能な高水準のスケートボード施設を整備し、ボートレース福岡のプレゼンス向上を目指す。

2 現状と課題

（ボートレース福岡の現状と課題）

ボートレース福岡の本場入場者数は、昭和50年度以降は減少傾向にあり、特に平成8年度以降は一貫して減少し、令和2年度には新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として無観客レースの開催や入場制限等の影響もあり、31.6万人まで落ち込んだ。

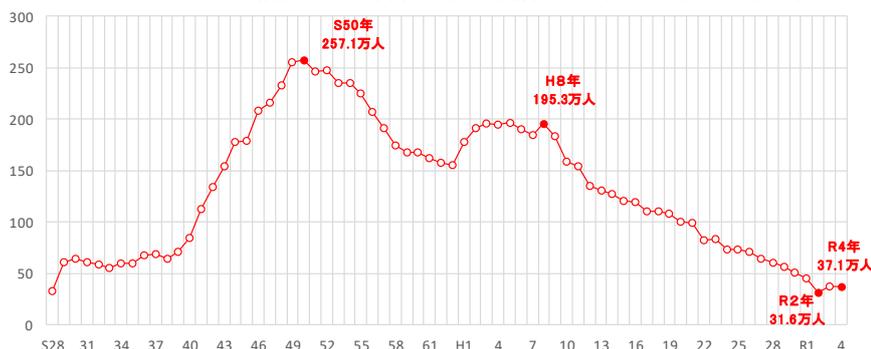


また、本場入場者数の減少と同様、前売投票所及び外向発売所についても、インターネットを利用した電話投票の増加等に伴い利用者が減少傾向にある。それに伴い、前売専用駐車場や東駐輪場などの利用台数も減少している。

この状況を踏まえ、令和3年度に策定した「ボートレース福岡経営計画(令和3年度～令和7年度)」においては、『世代を超えた継続的なファン獲得に向け、建物やコンテンツ等の見直し・強化を図り、イメージアップを図る』ことを強化すべき柱の1つにしている。

このため、前売投票所の機能を外向発売所に集約(令和7年1月予定)し、効率化を図るとともに、集約化により活用が可能となる前売投票所及び前売専用駐車場の跡地等を世代を超えた継続的なファン獲得に向け、イメージアップを図ることができる施設の整備を検討することとした。

■ボートレース福岡の入場者数推移(昭和28年度～令和4年度)



(福岡市におけるスケートボード施設の現状)

スケートボード施設は、東京2020オリンピックにおける日本人選手の活躍等を背景に、市内においてニーズが高まっているが、都心部に施設がなく、大規模な大会が開催できるような施設もない状況となっている。

街中での危険な滑走などが問題となることもあり、マナーアップなどの取組みも重要であるが、そうした課題を解決するためにも場の提供が不可欠であるため、関係団体からは、大規模大会が開催可能なスケートボード施設を都心部のボートレース福岡に整備することについて要望がなされている。

都心部の公共施設等において、大規模大会が開催可能な一定の広さを確保できる候補地として、ボートレース福岡は最適である。

3 パーク化の全国的な動き

全国のボートレース場においても、インターネットを利用した電話投票の増加等に伴い、来場者が減少している。このため、ボートレース業界の中央団体の一つであるボートレース振興会において、ボートレース場を地域に開かれた魅力的な施設とすることで、地域貢献を図るとともに地域の方々にボートレース場を身近に感じてもらい、イメージアップや新規ファンの獲得を目指す施策として、パーク化を推進している。

ボートレース振興会では、パーク化の実施にあたって、3つのポイントを明示し、助成を実施することで、各場の導入に向けた後押しを行っている。

◆ボートレース振興会がパーク化に求める3つのポイント

- ・「地域貢献、スポーツや文化の発信に寄与している常設の施設を設置」
- ・「ボートレース場の遊休スペースを有効活用」
- ・「若年層・ファミリー層の来場きっかけ」



ボートレース鳴門(ウズパーク)

全国のボートレース場24場のうち、既に11場がパーク化を実施しており、ボートレース鳴門(ウズパーク)において、整備されたスケートボード施設は人気が高く、設置後の約4年で18万人以上が利用している状況である。

4 整備計画の概要

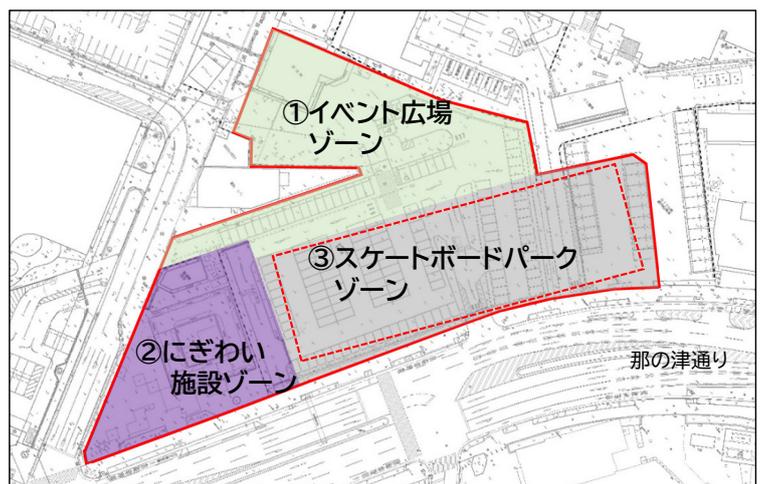
パーク化の整備にあたっては、さまざまな遊具やスポーツ設備等を配置したイベント広場に加え、カフェやショップ等の店舗を有するにぎわい施設を設置する。また、初心者から上級者まで誰もが楽しむことができ、大規模大会も開催可能な屋内スケートボード施設を設置し、パーク全体を統一感のある魅力的な空間として整備することで、若年層やファミリー層などの多くの市民が集いitくなるような空間としていく。

■パーク化の位置



パーク化エリア(合計 約9,100㎡)
 ・前売投票所 : 約 300㎡
 ・前売専用駐車場 : 約4,100㎡
 ・その他 : 約4,700㎡

■施設のゾーニングイメージ



■導入機能

①イベント広場

ボートレース福岡をPRするイベントや地域のお祭りなど、さまざまなイベントができる天然芝の広場を整備する。

また、イベント非開催時も、市民が集いたくなるような、遊具やスポーツ設備などを設置する。



【イベント広場イメージ】

②にぎわい施設

市民が楽しめるような、カフェやショップ等の魅力ある店舗が入居する施設を設置する。また、さまざまな人が交流できる多目的室やスケートボードパークの利用受付などのパーク全体の管理機能を設置する。

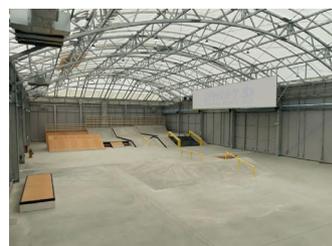


【にぎわい施設イメージ】

③スケートボードパーク

初心者や親子連れも楽しめるビギナーゾーンに加え、オリンピックの公式種目である、ストリート及びパークの大規模大会が開催可能な上級者用ゾーンを配置したコンクリートパークを整備する。

また、スケートボードパークは、全天候に対応した屋内施設とする。



【屋内スケートボードパークイメージ】

ゾーン	導入機能	概要等
①イベント広場ゾーン	イベント広場(2,000㎡以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなイベントが実施できる天然芝の広場(面積1,000㎡以上) ・市民が集いたくなるような遊具・スポーツ設備など
②にぎわい施設ゾーン	にぎわい施設	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者資金による整備(建築面積1,000㎡以内、高さ15m以下)
	・飲食・物販等	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるカフェやショップ等の店舗
	・施設全体の管理機能(受付等)	<ul style="list-style-type: none"> ・スケートボードパーク利用者の受付など
	・多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな人が交流できるフリースペース
③スケートボードパークゾーン	スケートボードパーク	<ul style="list-style-type: none"> ・全天候に対応した屋内施設(約3,000㎡程度) ・全面コンクリートのスケートボードパーク ・常設の観覧スペース
	ビギナーゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・初心者や家族連れも楽しめる平坦なコース
	ストリート	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック競技に採用されている種目 ・「ストリート競技」に対応できるコース(面積950㎡程度)
	パーク	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック競技に採用されている種目 ・「パーク競技」に対応できるコース(面積800㎡程度)

※各ゾーンの用地は更地で引き渡す予定

【参考】 スケートボードパークの事例



難易度:低

ビギナーゾーン

安全に滑れるフラットな床



難易度:低

難易度:高

ストリート

階段・アールなどを設置



難易度:低

難易度:高

パーク

様々な曲面を組み合わせた形のコース

5 維持管理及び運営の概要

①営業時間

10:00～22:00

②利用料

- イベント広場 ……無料
- スケートボードパーク……有料 ※今後、詳細は規則等で定める

③利用及び貸出管理

イベント広場及びスケートボードパークなどの利用受付 等

④維持管理

施設の日常点検、軽微な維持補修 等

⑤広報

施設の基本情報、イベント情報などの広報

⑥大会運営の協力

スケートボード大会開催時における大会運営への協力

⑦マナー対策

施設の利用者に対するマナー啓発及び指導

⑧安全対策

施設の利用者に対する安全対策(ヘルメット着用の義務付け等)

⑨さまざまなイベントの実施

スケートボードパークにおけるスクール開催やイベント広場におけるさまざまな集客イベントの実施 等

6 事業手法について

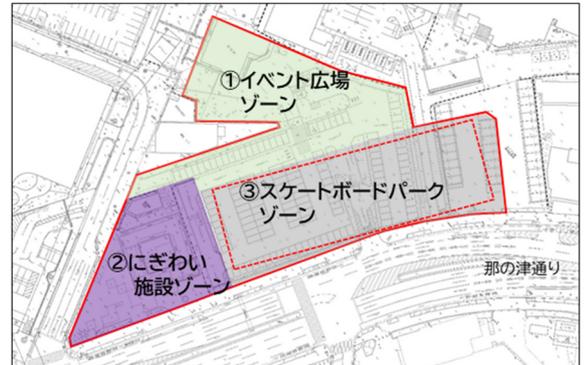
■事業手法

今回のパーク化においては、『ポートレース福岡経営計画』以上に生じた剰余金を活用して整備を実施する。

また、整備にあたっては、PPP(官民協働事業)の活用により、整備費用の軽減や施設全体のにぎわいの創出に加え、運営面まで考慮した効果的な整備を実施する。

具体的には、①イベント広場及び③スケートボードパークについては、施設の設計施工、維持管理及び運営を事業者に一括発注する方式を採用し、②にぎわい施設の設置にあたっては、整備する事業者に対し必要な用地について定期借地権設定による貸付を実施する。

なお、パーク全体の植栽管理やスケートボード施設及びにぎわい施設以外の清掃業務については、ポートレース福岡本場における既存の開催運営業務において実施するため、今回の事業手法の対象としない。



■事業手法の検討

事業手法の検討にあたっては、本事業で重視する視点に沿った比較(定性的評価)やポートレース福岡の資金調達を前提に、直接整備方式、設計施工一括発注方式及び設計施工、維持管理及び運営一括発注方式の事業費について試算(定量的評価)を行った。

下記の評価を踏まえ、長期にわたる維持管理及び運営を伴う本事業においては、設計施工、維持管理及び運営一括発注方式が望ましい結果となった。

表一 各事業手法の比較

(単位:億円、税込)

事業手法	直接整備方式	設計施工一括発注方式	設計施工、維持管理及び運営一括発注方式
事業費①	24.8	24.0	23.5
設計施工	16.0	15.2	15.2
維持管理及び運営	8.8	8.8	8.3
その他費用② (建物賃貸借料)	1.3	1.6	1.6
市収入③	6.0	6.0	6.0
公共負担額(①+②-③)	20.1	19.6	19.1
比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費が最大 ・ 設計、施工、維持管理及び運営を別々に契約するため、設計面、整備面、維持管理面、運営面の工夫(技術力)が十分に反映されない。 ・ 設計、施工企業が異なるため統一感のある空間とすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費が軽減 ・ 整備面で一部、工夫(技術力)が期待できるが、運営面の工夫(技術力)が反映されにくい。 ・ 統一感のある空間の提案が受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費が最小 ・ 運営面を考慮したさまざまな工夫(技術力)を設計施工に反映できる。 ・ 施設の特異性に合わせた運営が可能となり、利用上の課題にも柔軟かつ迅速に対応できる。 ・ 3つの施設の一体的な運営により、各施設の連携による相乗効果が期待でき、にぎわいの創出が図られる。 ・ 統一感のある空間の提案が受けられる。

・各費用は、令和6年2月時点での概算額であり、今後の社会状況の変化や事業の精査等を行う過程で変動する可能性がある。

■事業費

設計施工、維持管理及び運営一括発注方式で整備する、①イベント広場及び③スケートボードパークにおける整備費、整備後の維持管理及び運営費は、以下のとおりを予定している。

整備費(設計施工) …約15億円 維持管理及び運営費 …約8億円(20年6か月)

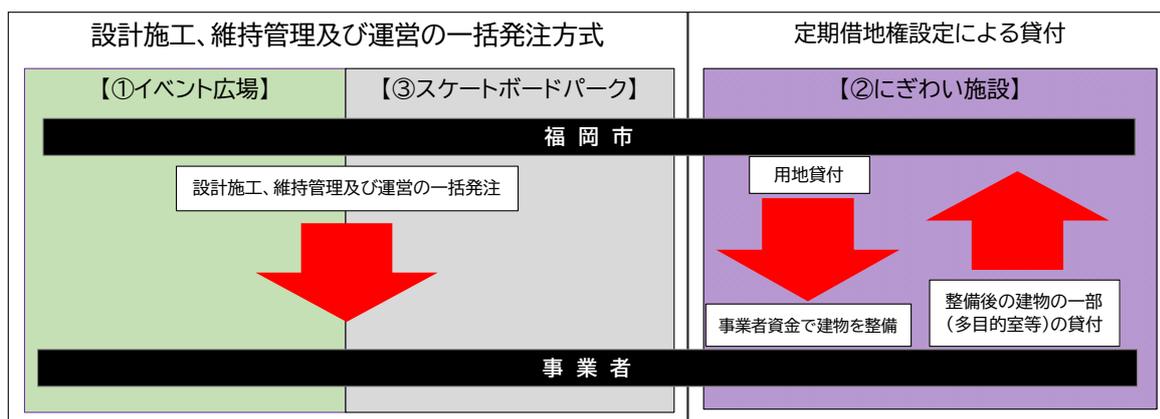
■事業期間

- ①設計施工及び開業準備期間 契約締結日(令和6年12月予定)～令和8年9月30日まで
- ②維持管理及び運営期間 令和8年10月1日～令和29年3月31日まで(20年6か月)

7 事業スキーム及び官民の役割分担

設計施工、維持管理及び運営一括発注方式を採用した場合の事業スキーム及び官民の役割分担は以下のとおり。なお、パーク全体の植栽管理やスケートボード施設及びにぎわい施設以外の清掃業務については、ボートレース福岡本場における既存の開催運営業務において実施するため、今回の事業スキームの対象外とする。

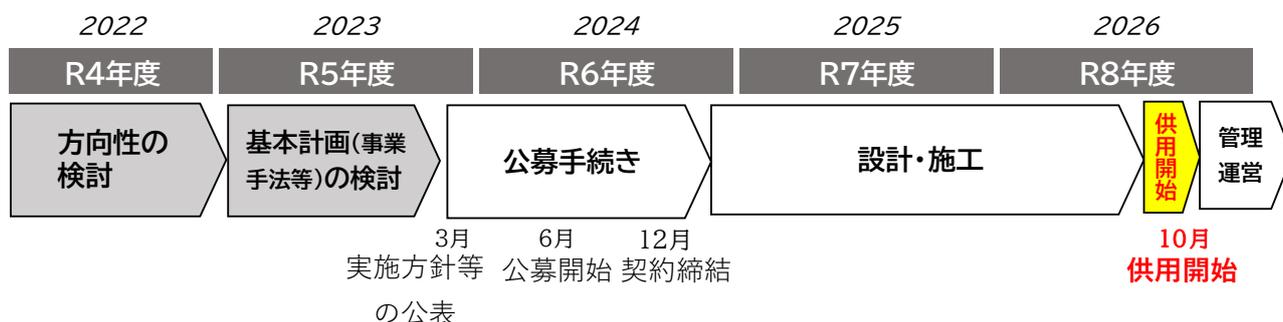
■事業スキーム(概略)及び官民の役割分担



事業方式	イベント広場、スケートボードパーク					にぎわい施設			
	設計施工、維持管理及び運営の一括発注方式					定期借地権設定による貸付			
	資金調達	設計	施工	維持管理	運営	施設所有	資金調達	全業務	施設所有
役割	市	一括で民間事業者が実施 (建設JV等)				市	民間事業者	民間事業者 (独立採算)	民間事業者

8 スケジュール

令和8年度の供用開始を目指し、以下のスケジュールを予定しており、スピード感をもって事業を推進する。



参考1 公募手続きについて

■対象事業の範囲

施設	事業手法
イベント広場	設計施工、維持管理及び運営の一括発注
スケートボードパーク	
にぎわい施設	定期借地権設定による貸付 ※民間事業者資金による建物整備

■事業期間

契約締結日(令和6年12月予定)～令和29年3月31日(22年3か月)

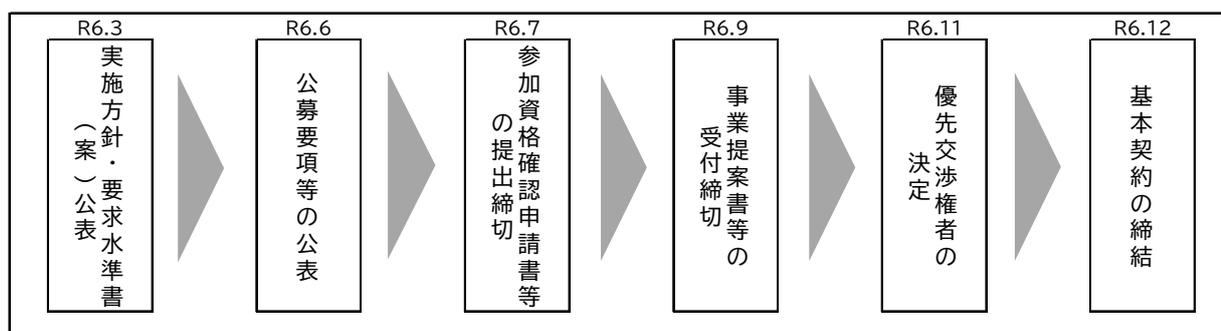
■事業者の選定方法

本事業に係る価格及び提案内容等を総合的に評価し、事業者は公募型プロポーザル方式で選定する。

■応募者

本事業を実施するために必要な能力を備えた複数の法人で構成されたグループとする。

■公募スケジュール(予定)



■事業者検討委員会の設置

今回のパーク化にあたっては、事業者を公募型プロポーザル方式による選定を予定しており、学識経験者等で構成する「ポートレース福岡パーク化事業事業者検討委員会(以下「検討委員会」という。)」を設置し、応募者の提案内容の評価を実施する。

市は、「検討委員会」の審査結果を踏まえて事業者を決定する。

また、提案内容の評価にあたっては、天神北エリアやポートレース場全体のにぎわい作りやスポーツ及びスケートボード施設としての魅力、施設の長期的な運用のあり方などについての視点が必要なことから、「検討委員会」の委員を以下のとおり選定している。

委員氏名		所属 等
委員長	田上 健一	九州大学副理事・芸術工学研究院教授
副委員長	美原 融	株式会社美原融事務所 代表取締役 (大阪商業大学院・大学教授(～2019年)) (東洋大学大学院公民連携専攻客員教授(～2020年))
委員	古賀 竜介	古賀公認会計士事務所 所長 公認会計士
委員	今野 政明	BOATRACE振興会 施行者総合支援部 ゼネラルマネージャー
委員	重岡 清貴	市民局スポーツ推進部長

参考2 ボートレース振興会の助成について

パーク化の実施にあたっては、ボートレース振興会における「ボートレース場パーク化に係る本場活性化事業」の助成(総事業費の5割、上限1億円)に加え、2021年に新しく新設された「ボートレース場コミュニティパーク化活性化事業」の助成(総事業費の5割、上限2億円)の同時活用を検討する。

ボートレース振興会の助成の概要

種類	ボートレース場パーク化に係る本場活性化事業	ボートレース場コミュニティパーク化活性化事業
設置主体	施行者(ボートレース場)	施行者(ボートレース場)
助成額	総事業費の5割まで(上限1億円)	総事業費の5割まで(上限2億円)
助成対象	総事業費2千万円以上 ・地域への貢献、スポーツや文化の発信に寄与している常設の施設の設置 【事業例】 ・地元ファミリー層向け「ボートレース場」の常設設置等	総事業費2億円以上 ・2,500㎡以上 ・芝生広場、四季折々の植樹、多目的施設の設置必須 ・管理する専門スタッフの常駐が必須 ・パーク化と併用可能 ・名称は「コミュニティパーク グルーン○○」とする(○○は地名等)など

